

三陸国際芸術祭 2019 連携企画

「未来との対話、三陸とインドネシア」とは

2015 年より三陸地域とアジアを「芸能によって繋ぐこと」を目的に交流事業を実施してきた国際交流基金アジアセンターと、2013 年より東日本大震災の被災地とスマトラ沖地震の被災地とを結び、震災の記憶を未来へと伝えていくための活動をしている NPO 法人地球対話ラボが主催するアートによる被災地間交流事業。三陸国際芸術祭 2019 の連携企画として、「三陸 × アジア」をテーマに行われます。

会期 | 2019 年 3 月 3 日⑩～3 月 24 日⑩

会場 | 岩手県大槌町、宮城県気仙沼市および仙台から大槌町へいたる三陸沿岸部一帯

主催 | 国際交流基金アジアセンター、NPO 法人地球対話ラボ

助成 | YS 市庭コミュニティ財団、公益財団法人トヨタ財団

三陸国際芸術祭とは

自然の造形美であるリアス式海岸を誇る三陸沿岸地域。

ここは、数多くの郷土芸能の団体が存在し、世界でも類を見ない芸能の宝庫です。

幾世代もの伝承を経て地域に根付き、今も脈々と受け継がれている芸能。

その魅力を世界にお伝えすること。

同様に世界のあらゆる地域に点在する多くの芸能との交流を生み出すこと。

三陸国際芸術祭は、世界中の多様な文化と芸術が混ざり合い、創造的な瞬間を分かち合います。

会期 | 2019 年 2 月 9 日⑤～3 月 24 日⑩

会場 | 青森県八戸市、岩手県宮古市・大船渡市・階上町・久慈市・田野畑村・大槌町・住田町、宮城県気仙沼市

主催 | 三陸国際芸術推進委員会、国際交流基金アジアセンター、NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク、〈宮古では次も加えて開催〉NPO 法人いわてアートサポートセンター、〈みやこ郷土芸能祭〉宮古市、宮古市教育委員会、宮古市郷土芸能団体連絡協議会、〈五十集余情〉ヒガシ・デ・アエル準備事務局、〈三陸芸能列車〉三陸鉄道株式会社

NPO 法人地球対話ラボ

「地球対話」は、インターネットテレビ電話などを使って、地球上で遠く離れた国や地域など、日常生活では会うことが難しい人びとの間をつないで行う、同時・双方向・対面のコミュニケーション。そこには、お互いの顔を見て／見られて、声や表情が作用し合う場が生まれます。相手のことばに驚いたり、一緒に笑ったり、その実感や経験から、自分が変わり、相手との関係が変わり、やがて世界が変わる、そんな交流を目指しています。

活動開始は 2002 年の「アフガン対話プロジェクト」。衛星電話とテレビ電話を使って、戦争で荒廃したアフガニスタンの首都カブールと日本の、高校生同士の対話を実施。その後もマスメディアが伝えない場所へ、発信する機会のない人々へと、対話を模索し、2003 年にイラク開戦直前のフセイン政権下で高校生と、2005 年には再びアフガニスタンの高校生との対話が実現しました。その間に、インターネットや通信機器の進化、SNS や映像配信サービスの登場など、「対話」をめぐる環境は大きく変わりました。そこで 2010 年、新しい「対話」のあり方を模索しながら、地球上のあちこちへ対話による出会いとつながりを広げて行こうと、地球対話ラボを設立。2010 年 5 月、NPO 法人の認証を受けました。

お問い合わせ

特定非営利活動法人地球対話ラボ

chikyutaiwa@gmail.com

TEL: 070-5015-7180



三陸とインドネシアとを結ぶ6つのプロジェクト

2004年のスマトラ沖地震の被災地、インドネシアのアチェと2011年東日本大震災の被災地、東北。2013年から私たち特定非営利活動法人地球対話ラボはこの両地域を結ぶ被災地間交流プロジェクトを行なってきました。両国のメンバーがお互いの国や地域を行き交う中で、知りえなかったそれぞれの震災の一面にふれ、自分が当然と思っていた文化を「外」の視点からながめなおすことによるさまざまな気づき・共鳴が生まれています。三陸国際芸術祭2019連携企画「未来との対話、三陸とインドネシア」ではそうした成果をもとに、宮城県気仙沼市と岩手県大槌町を中心とした三陸の地で6つのプロジェクトを行います。ここで生まれた経験や出会いも、さらに次のプロジェクトへと生かされていき、文化による相互交流があたかもキャッチボールのようにつづいていく営みが作られていきます。

三陸を結ぶプロジェクト



東日本大震災発生時、自宅のある仙台に戻るため、自転車を買って200キロを走破した現代アーティスト門脇篤は、震災を「追体験」する試みとしてスマトラ沖地震の被災地アチェの西海岸200キロを自転車で走る「アチェと東北、200キロサイクリング」を2017年に実施。今回は仙台から大槌までの沿岸を走り、震災からの復興のようすを見るときともに、気仙沼と大槌で行われる本事業を自転車で結びます。

サイクリングと展示

「三陸とアチェ、200 キロサイクリング」

サイクリング 2019年3月12日(火)～14日(木)

ルート 仙台～東松島～石巻～女川～南三陸～気仙沼～大船渡～釜石～大槌

展示 会期 2019年3月17日(土) 9:00～16:00 (設置3/16夕方)
会場 大槌町文化交流センターおしゃっち エントランスホール
入場 無料



インドネシア・アチェで震災復興と向き合う人々を招へいし、東北の人々と交流するアート・スタディツアー。文化的背景を異にする者が、震災を体験した地域同士で出会い、震災のこと、お互いの社会について再発見し「せかい」を広げていく旅です。大槌町「おしゃっち」では、その体験をふまえて、三陸とアチェの人々によるトーク会を開催、「未来」に向けての対話として発信します(3/17)。「ピントウ」とはインドネシア語で「入り口」のことです。

アートツアー

「想いにふれる せかいが広がる どこでもピントウさんぽ in 三陸」

日程 2019年3月13日(水)～19日(火)

行先 気仙沼市および大槌町

参加 インドネシア・アチェからの6名ほか

コーディネート 中川真規子(スタディツアーコーディネーター)

石巻市

女川町

南三陸町

宮城県気仙沼市

陸前高田市

大船渡市

岩手県大槌町

釜石市

気仙沼でのプロジェクト



気仙沼市には多くのインドネシア人技能実習生が住んでいます。彼らの目を通して見える三陸や日本、そしてインドネシアとはいったいどんなものなのでしょうか。インドネシアと東北を行き来しながらアートプロジェクトを行う仙台在住の現代アーティスト門脇篤が、アフガン戦争以後映像や対話の可能性を追究する映像作家渡辺裕一とともに、映像と写真からなるインスタレーション作品を制作・展示します。

映像インスタレーション 「気仙沼のインドネシア人」

会期 2019年3月3日(土)～24日(日)

休館日: 3/4、3/11、3/18、3/21

開館時間: 火～金 9時～19時、
土・日 9時～17時

※ただし最終日3/24は16時まで

会場 気仙沼図書館・ユドヨノ友好こども館

入場 無料

出展 門脇篤(現代アーティスト)
渡辺裕一(映像作家)



2019年3月10日にオープンする「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」で、同じ津波被災地インドネシア・アチェの子どもアートを展示します。今回展示するのは2018年12月、アチェ津波博物館で行ったワークショップで津波や内戦をテーマにこどもたちが制作した絵や絵本、ジオラマなど約30点。今後もインドネシアと気仙沼市の間で継続的に、子ども同士のビデオ通話対話やアートによる相互交流を行う予定です。

被災地間交流展示

「アチェの子どもアート」

会期 2019年3月10日(土)～

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、祝日の翌日

開館時間: 4～9月 9:30～17:00、10～3月 9:30～16:00 (入館時間は閉館1時間前まで)

会場 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館図書コーナー

入場 無料(ただし震災遺構・展示エリアには入場料がかかります)

出展 インドネシア・アチェのこども
(WS コーディネート: パルディ・カルリザ)

大槌でのプロジェクト



インドネシア・アチェから訪れた6人といっしょにアチェコーヒーを飲んだり、おしるこを食べたりしながら、大槌町とアチェの映像や小川旅館さんのドローン映像、アチェの若者による津波生還者のビデオなど、撮った人の顔が見える上映会を行います。神戸スポーツ映画祭優秀作品・門脇篤監督ドキュメンタリー『インドネシアで私が200キロ自転車をこいた理由』の東北プレミア上映も!

アチェコーヒーとおしるこをいただきながら映像交流

「おしるこカフェ / コミュニティアート映像祭 in 大槌」

日時 2019年3月16日(土) 13:00～16:00 (12:30 開場)

会場 大槌町文化交流センターおしゃっち 多目的ホール

内容 13:00～14:00 上映①
大槌町紹介ビデオ、アチェ州政府スマトラ沖地震14周年復興映像
門脇篤監督「インドネシアで私が200キロ自転車をこいだ理由」
14:00～15:00 おしるこカフェ
アチェコーヒーとおしるこをいただきながらの交流会(50食限定となります)
15:00～16:00 上映②

参加 小川旅館絆館撮影「大槌空撮散歩」、Shiti Maghfira 監督「SURVIVOR」ほか
無料



大槌高校復興研究会のみなさんや震災遺構を活用した被災地ツーリズムの取り組みが盛んなインドネシア・アチェの人々、東日本大震災常設展のあるリアス・アーク美術館副館長らによる交流トーク会。それぞれの経験を共有することで、地域や時間をこえて未来との対話を行います。トークに先立ち、アチェの名物料理ミー・アチェ(アチェ焼きそば)や大槌の名物料理をお楽しみいただきます!

アチェ・大槌の名物料理と交流トーク会

「三陸とアチェ、未来への対話 ～アチェ、大槌高校復興研究会、リアスアーク美術館の取り組み」

日時 2019年3月17日(日) 12:00～16:00 (11:30 開場)
12:00～アチェと大槌の名物料理による食の交流(50食限定となります)
13:00～交流トーク会

会場 大槌町文化交流センターおしゃっち 多目的ホール

パネラー 大槌高校復興研究会(岩手県立大槌高校)
ラマダニ氏(アチェ州文化観光局副局長)
山内宏泰氏(リアス・アーク美術館副館長/学芸員)
アチェの若者たち
中川真規子(司会、スタディツアーコーディネーター)

参加 無料